

H17.7.29 改訂

H17.5.31 改訂

H16.7.31 制定

官民合同会議目録登載ガラスの施工・使用に関する板硝子協会基準

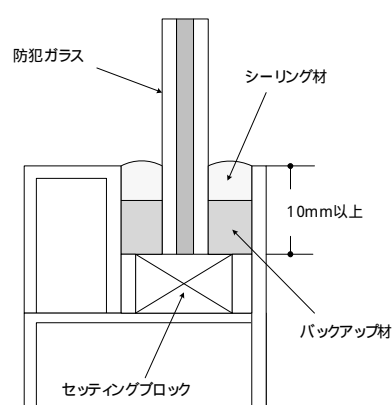
(平成17年基準)

この基準は、「防犯性能の高い建物部品の開発・普及に関する官民合同会議」が公表した目録に登載されたガラスの施工・使用について定めるものです。

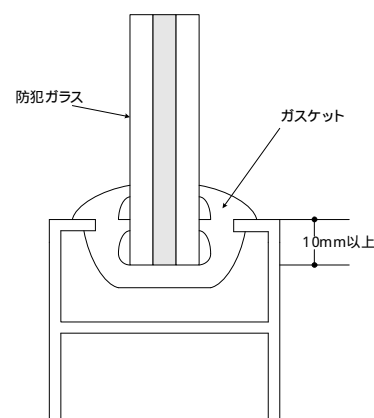
1. 使用するサッシについて

ガラスを納めるサッシは「官民合同会議」の目録に登載されたサッシを使用することを推奨します。

納まりの一例を以下(図1及び図2)に示しますが、かかりしろを10mm以上としてください。



(図1 シーリングの例)



(図2 ガスケットの例)

なお、サッシはガラス端部に接する水を排除できる構造にし、特に下部には、たて部から流れ落ちる水を含め、侵入した水を速やかに排除できる構造としてください。また規定のエッジクリアランスが保たれるような緩衝材(セッティングブロック)を設けて、サッシ部材と板ガラス端部の直接接触を避ける構造とし、下部の緩衝材は、水抜き穴への水の移動を妨げないような設置位置、構造としてください。

2. サブロック付クレセントと補助錠について

クレセントは必ずサブロックまで施錠してください。補助錠は市販のもので構いません。

が外部から手首を完全に内部に入れないと開錠できないものを選んで施錠してください。なお上げ下げ窓等、開閉可能な窓で、サブロック付クレセントがない場合は、手首まで入れないと開錠できない構造の補助錠等を2ヶ所取り付けて施錠してください。

3. リフォーム等でガラスだけを取り替える場合の注意事項

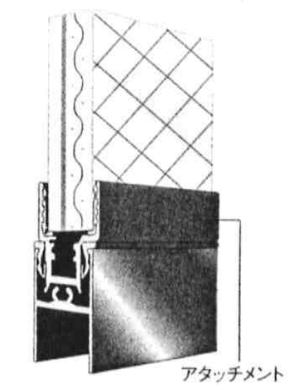
ガラスだけを「官民合同会議」の目録に登載されたガラスに交換する場合で、上記1の条件(特にかかりしろの条件)を満たせない場合は、防犯性能を高めるため以下 ~ のいずれかの方法を取ってください。

(ただし、いずれの方法においても、サッシが「官民合同会議」の防犯建物部品でない場合は、防犯性能の高い窓とはならないのでご注意ください。)

かかりしろ10mm以上で、サブロック付クレセントの場合は補助錠を1箇所とりつける、サブロックが無いクレセントの場合は補助錠を上下離れた場所に2箇所取り付けてください。

かかりしろ10mm未満の場合は必ずサブロック付クレセントであることを確認し、補助錠を上下はなれた場所に2ヶ所取り付けてください。

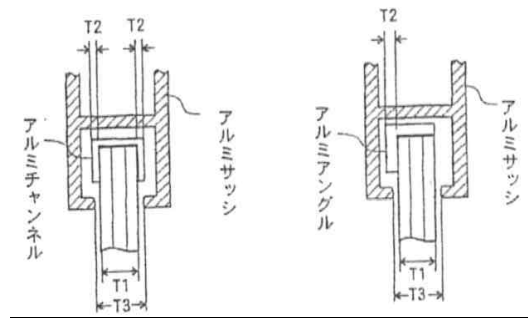
図3に示すようなアタッチメント付ガラス及び、アルミ部材で縦辺を補強した場合でサブロック付クレセントの場合は補助錠を1箇所、同じくサブロックが無い場合は補助錠を上下はなれた場所に2箇所取り付けてください。



(図3)

図4に示すアルミアングル又はアルミチャンネルを用い、ガラスのクレセント側のタテ辺を補強した上で施工する。

尚、新築の場合でサッシのかかりしろを10mm以上確保できない場合もこの3.リフォームの注意事項に従ってください。



(図 4)

4 . ガasketまたはシーリング材及び緩衝材について

ガasketは、JIS A5756 に適合するもの、シーリング材は JIS A5758 に適合するものを用いる他、それらの選定にあたっては、その合わせガラスの中間膜の材質(PVB、EVA、PET 等) との適合性を確認した上で、適切なものを使用してください。

また緩衝材の選定にあたっては、その合わせガラスの中間膜の材質 (PVB、EVA、PET 等) との適合性を確認した上で、適切なものを使用してください。

またガasketのうちグレージングチャンネルを用いる場合には、ガラスとガasketの間に水が長期に滞留しないように配慮したものを使用してください。合わせガラスのエッジが多湿環境に長期間さらされた場合、エッジから数 mm 程度の白濁が発生する場合がありますのでご注意ください。

5 . 施工上の一般的注意注意事項

施工上の一般的注意注意事項は、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS 1 7 ガラス工事」によります。

5 . 使用上の一般的注意注意事項

ガラスが破損したり、大きなひび割れが発見された場合は、放置すると危険なので、速やかに交換してください。

キズやカケ、小さなひび割れを発見した場合は、最寄りのガラス店に連絡して取替えの必要性について相談してください。クラックは放置しておくとも成長して、それによる破損で思わぬケガをすることがあり、またキズやカケはガラスの強度を低下させ、容易に破損する原因となります。特に強化ガラスを使った合わせガラス、又は合わせ複層ガラスの場合、強化ガラスの特性上、不意に破損することがあります。

網入りガラス、熱線吸収ガラス、熱線反射ガラスを使った合わせガラス、合わせ複層ガラスの場合は、特に熱割れの危険がありますので、厚いカーテンやブラインド、家具

等をガラスに密着させたり、ポスターやシールを貼ったりしないでください。またストーブやコンロを近くに置いたり、冷暖房の吹き出し空気を直接ガラスに当てることも避けてください。

合わせ複層ガラスは、断熱効果が高いので一般的には結露しにくいガラスですが、室内の湿度が高い場合、複層ガラスを使用していても結露することがありますので、換気の励行や、洗濯物を室内に干さないなど、部屋の湿度を下げる工夫をしてください。

以上